

Of 属格と後置属格の境界

茨木正志郎

1. 序論

of 属格は後期古英語に出現し、中英語に広く使われるようになった。of 属格に関する構造に、後置属格、あるいは二重属格と呼ばれる構造がある。

(1) a friend of mine, an idea of Tom's

of 属格と似た形式を取る後置属格だが、通常の of には見られない様々な特徴を持つ。すなわち、of に後続する名詞は属格を示し、さらに、その名詞は有生でなければならない。また、of が部分と同格のどちらの機能を持つのかという問題もある。このように、後置属格は通常の of 属格とは一線を画する構造であると考えられる。本論では、後置属格は古英語・中英語に存在した二重決定詞から発達したという仮説に基づいて、den Dikken (2006)の理論的枠組みと Ibaraki (2010)の属格名詞句の発達、Kayne (1994)の NP 移動による属格付与分析の観点より説明を試みる。また、本論では、(1)の不定冠詞が修飾する後置属格のみを対象としており、指示詞や定冠詞が修飾するタイプや、複合不定代名詞が主要部名詞になっているタイプ(anything of mine)、own が後続するタイプ(a daughter of his own)はここでの調査・研究の対象から除外している。

2. 後置属格の起源

後置属格の起源について、部分の of からの発達を主張する先行研究に、Mätzner (III, 222)や Hatcher (1950)がある。これらの先行研究では、前置詞の of は“out of the number of”を意味し、of+属格は先行する名詞の複数形を省略したもので、例えば、a friend of my father's は a friend from out of the number of my father's friends が本来の構造になると主張している。しかし、この仮説は、Beckmann (1885)や Heltveit (1969)が反論するように、後置属格が省略構文であるならば、省略された語を補填されることが可能であるはずだが、実際にそのような補填はできない。

(2) *a friend of my friends, *a book of his books

(cf. Beckmann (1885: 412))

本論では、YCOE と PPCME2 を用いて、(2)のような事例が古英語・中英語に存在したかどうか調べたが、1例も見つけることができなかった。このことは、省略が起こる前段階の構造は存在しなかったことを意味し、省略説にとって否定的なデータであると考えられる。

一方、Jespersen (1927)や Heltveit (1969)らは、後置属格の起源は同格構造を持つ二重決定詞からの発達であると主張している。

(3) a his friend / his a friend → a friend of his

Heltveit (1969)によれば、属格名詞は次第に定性を獲得したため、名詞前位位置で冠詞や指示詞と競合するようになった。その結果、属格名詞は主要部名詞の後ろに置かれるようになり、それらの間に of が挿入された。本論では、同格説に基づき、後置属格は二重決定詞から出現したと仮定する。

3. 構造分析

本論では、den Dikken (2006)の R(elator)P(hrase)を採用し、Ibaraki (2010)の属格名詞句の発達と Kayne (1994)の NP 移動による属格付与の観点から説明を試みる。Ibaraki (2010)では、属格の格付与は、古英語の屈折接辞 -(e)s が、中英語に D 主要部を占める格付与子へ発達したと主張しており、その構造変化は(4)のようになる。

(4) a. [DP (DP) [D' [NP (DP) [N' N]]]] (OE) Inherent Case Assignment

b. [DP DP_i [D' -(e)s/-'s[NP t_i [N' N]]]] (ME) Structural Case Assignment (cf. Ibaraki (2010: 336))

(4a)が古英語の構造で、ここでは、Chomsky (1986)の一様性の条件に従い、NP 指定部に基底生成する属格名詞句は主要部名詞から θ 役をもらう際に内在格を付与され、その後 DP 指定部へと繰り上がる。

中英語になると、構造は(4b)へと発達する。(4b)では、格付与子となった属格の屈折接辞が D 主要部を占め、その指定部に構造格を付与する。属格名詞は RP 指定部で生成され、N 主要部から θ 役を受け取った後、DP 指定部へと繰り上がり属格を受け取る。

また、本論では、den Dikken (2006)の RP を採用する。den Dikken (2006)では、すべての叙述関係は、機能主要部 R(elator)がその指定部と補部を結びつける構造によって、統語的に示されると主張されている。

(5) [RP XP [R' R YP]]

(den Dikken (2006: 11))

den Dikken は(5)の R は抽象的機能範疇であり、指定部と補部の 2 つの叙述関係を仲介するあらゆる機能範疇

のためのプレースホルダであると主張している。本発表では、RP 構造を採用し、Ibaraki (2010)の属格構造を修正し、(6)を提案する。

- (6) a. $[_{DP} (DP) [_{D'} [_{RP} (DP) [_{R'} R [_{NP} N]]]]]$ (OE) Inherent Case Assignment
 b. $[_{DP} DP_i [_{D'} -(e)s/-'s[_{RP} t_i [_{R'} R [_{NP} N]]]]]$ (ME) Structural Case Assignment

古英語における二重決定詞の派生は次に示すとおりである。

- (7) $[_{DP} a(n) [_{RP} John(-'s)/HE(=his) R [_{NP} friend]]]$

古英語では、RP 指定部と補部に属格名詞と主要部を含む名詞句 NP がそれぞれ基底生成され、D 主要部は不定冠詞が占める。RP 指定部の属格名詞は RP 補部の名詞から「所有者」の θ 役割を受け取り、一様性の条件に従って内在格を付与され、二重決定詞の派生は収束する。しかし、中英語に入ると、属格付与は内在格から構造格へと発達し、格付与子となった属格の屈折接辞が D 主要部を占めるようになる。D 主要部が不定冠詞によって占められ、同じ名詞句内の属格名詞に格付与ができなくなるという問題が起こる。この問題を解決するために、Kayne (1994)で提案されている NP 移動による属格付与が起こると仮定する。したがって、後置属格の派生は(8)のようになる。

- (8) a. $[_{DP} a(n) [_{FP} [_{F'} L(inker) [_{RP} John/HE R [_{NP} friend]]]]]$
 b. $[_{DP} a(n) [_{FP} [_{F'} L+R_i [_{RP} John/HE t_i [_{NP} friend]]]]]$
 c. $[_{DP} a(n) [_{FP} [_{NP} friend]_j [_{F'} L+R_i(=of) [_{RP} John's/his t_i t_j]]]]$

(8a)では、RP 指定部と補部に属格名詞がと主要名詞を含む NP が基底生成され、主要部名詞が属格名詞に θ 役を与え、RP に L(inker)主要部が併合される。(8b)では、R が L へと繰り上がることで、フェイズが RP から FP へと拡張され、RP 指定部と補部は等距離になり、補部の NP が FP 指定部へと繰り上がる。(8c)では、L+R 主要部に構造格付与子である of が挿入され、RP 指定部の属格名詞に格を付与し、派生は収束する。

4. 結語

本論では、後置属格は二重決定詞から派生したという仮説に基づき、その発達について構造分析を提案した。(8)の派生を仮定することにより、後置属格に見られる特徴をうまくとらえられているように思われる。つまり、属格名詞のみが of に後続するのは、NP 移動の結果、RP 内には属格名詞のみが残留するからである。また、of に後続する属格名詞が有生でなければならないのは、(8a)の基底構造において、主要部名詞から付与される「所有者」という θ 役に適切な属格名詞が選択されるからである。

References

- Beckmann (1885) "Ueber die attributive Construction eines sächsischen Genitivs oder substantivischen Possessivepronomens mit of," *English Studien* 8, 412-414.
 Chomsky, Noam (1986) *Knowledge of Language: Its Nature, Origin and Use*, Praeger, New York.
 den Dikken, Marcel (2006) *Relators and Linkers: The Syntax of Predication, Predicate Inversion, and Copulas*, MIT Press, Cambridge, MA.
 Hatcher, Anna Granville (1950) "The English Construction *A Friend of Mine*," *Word* 6, 1-25.
 Heltveit, Trygve (1969) "The Old English Appositional Construction Exemplified by *sume his geferan*: A Forerunner of the Modern Construction *a friend of mine*," *English Studies* 50, 225-235.
 Ibaraki, Seishirou (2010) "On the Distribution of Genitives in the History of English: with Special Reference to the Development of -'s," *English Linguistics* 27, 329-343.
 Kroch, Anthony and Ann Taylor (2000) *Penn-Helsinki Parsed Corpus of Middle English Second edition (PPCME2)*, University of Pennsylvania, Pennsylvania.
 Jespersen, Otto (1927 [repr. in Great Britain 1954]) *A Modern English Grammar on Historical Principles: Part III Syntax*, Routledge, London and New York.
 Kayne, Richard (1994) *The Antisymmetry of Syntax*, MIT Press, Cambridge, MA.
 Mätzner, Engl (1860-5) *An English Grammar: Methodical, Analytical, and Historical*, tr. by Clare James Grece, 1874, 3 vols, Senjo, Tokyo.
 Taylor, Ann, Anthony Warner, Susan Pintzuk and Frank Beths (2003) *The York-Toronto-Helsinki Parsed Corpus of Old English Prose (YCOE)*, University of York, Heslington.